



パーム油農園開発から
オランウータン生息地を守る
ハルディ・バクチャントロ
共同創設者



ブミタマ / IOI社のボルネオ島中部アンタン・カランのパーム油農園。2007年11月の2週間で14頭を移動させ、5頭を救出。



その半年後、14頭のオランウータンを移転させた森がパーム農園となったことが判明。全頭殺害されたと思われる。その時からこの会社をウオッチしている。



2012年12月、ブミタマ社は中部カリマンタンのトゥンバン・コリン地区のナバティンド・カリヤ・ウタマ(NKU)社を買収。この森林は、オランウータンのほかクマ、テナガザル、スローロリスなど希少な哺乳類11種と鳥類54種類の生息地。



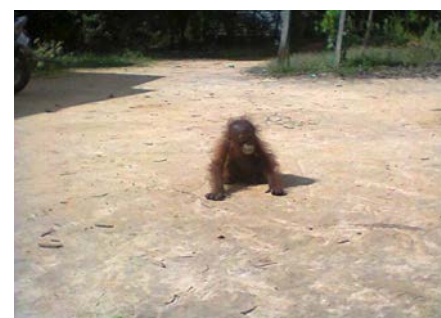
COPでは2007年からトゥンバン・コリン地区の森林を守るため、地元住民と協働。2008年2月に森林防衛者キャンプを設立。



トゥンバン・コリン地区のパーム農園開発で
行き場を失ったオランウータン(2008年4月)



NGOのキャンペーンにより2012年までは、同社の森林伐採を食い止めることに成功したので、この時はオランウータン救出作戦は1回だけで済んだ。



企業が土地を獲得すると野生生物には大惨事となる。ブミタマ社には住民を買収するための潤沢な資金がある。トゥンバン・コリン地区では2013年にパーム農園の開発が再開された。その後、母親を殺されたオランウータンの赤ちゃん2頭を救出。うち1頭は栄養失調と脱水症状で死亡。1頭は手指を3本誰かに切り落とされていた。



会社がアブラヤシを植えた所にゴムの木を植え、住民と協力関係を築いた。COPはオランウータン保護、住民は土地の防御が目的だ。



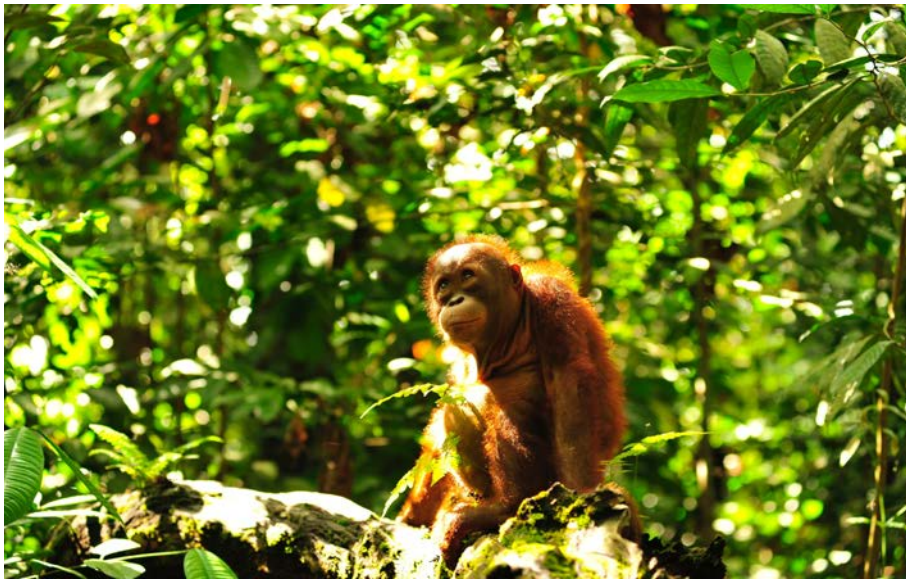
私たちの大規模なキャンペーンの影響で州知事は同社にプランテーションの拡張を止めるよう命じた。任期内の2年は乱開発阻止に成功。



数都市で大規模な路上キャンペーン



政府と業界団体に通報し、RSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)に苦情申立てを行った。事件は未解決だが、現在は操業は停止中で、保全地区が設けられた。



これも一時の勝利か？



ブミタマ社の事例では他の団体、FNP、IAR、BOSFとも連携。
レインフォレスト・アクションネットワーク、熱帯林行動ネットワーク、ウータンの協力に感謝。



活動には細心の注意を要する。2012年COPは最大手企業から提訴された。
正確な情報の維持は最優先。腐敗した役人を相手にする場合は尚更だ。



一般市民の支援を勝ち取っても、訴訟で潰されかねない。



訴訟や法執行は非常に費用と時間がかかり、軽い罰しか課せられない。



同時に最前線で、このような事件を食い止めなければならない。



オランウータンとその生息地の保護は、生物多様性保護法第5号(1990年)に定められ、法律上は完全に守られている。このような終わりなき救出は、政府が法を執行する政治的な意思を持てば、起こり得ない。



この闘いに勝つためには、皆様の支援が必要です。